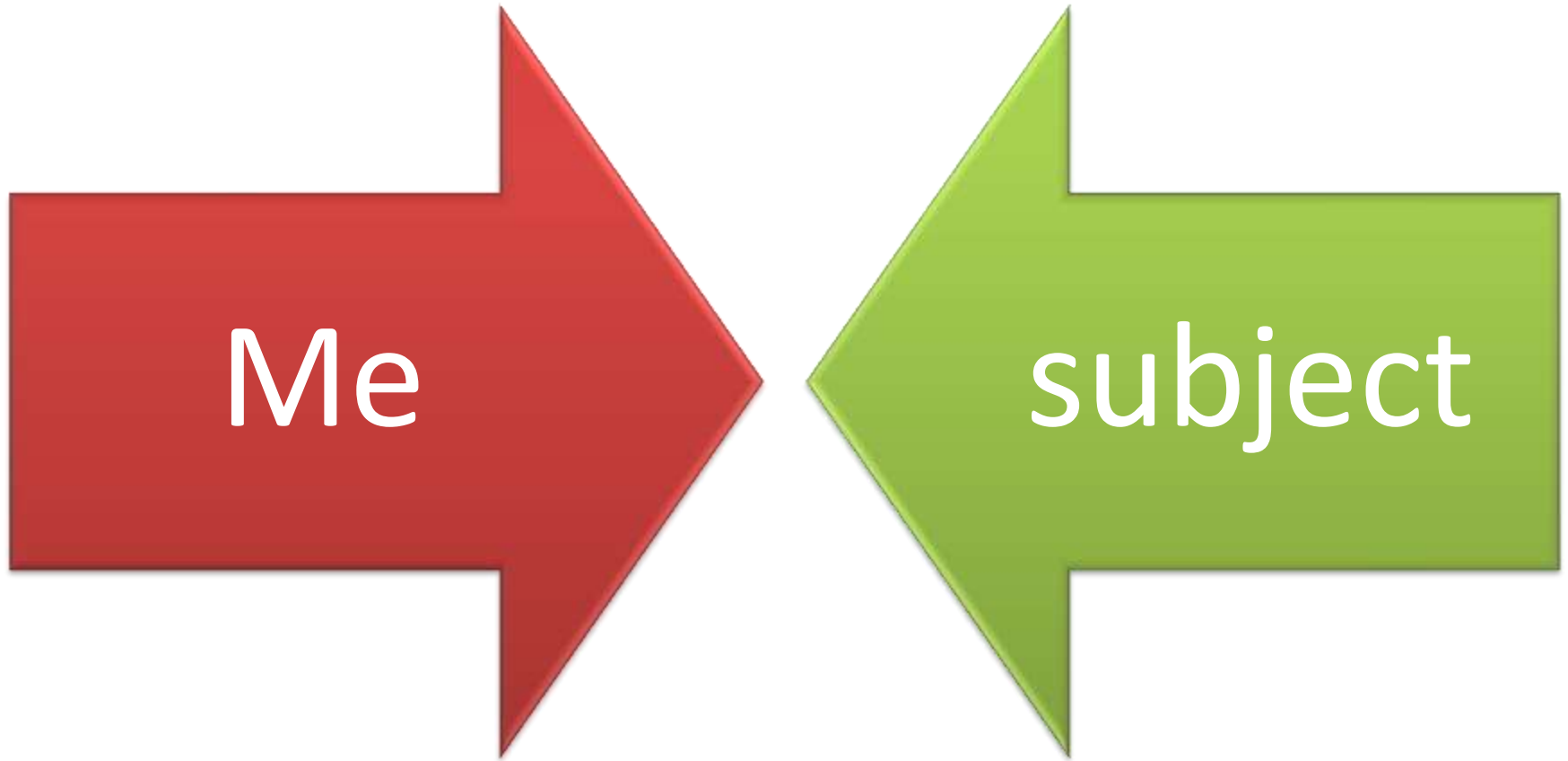


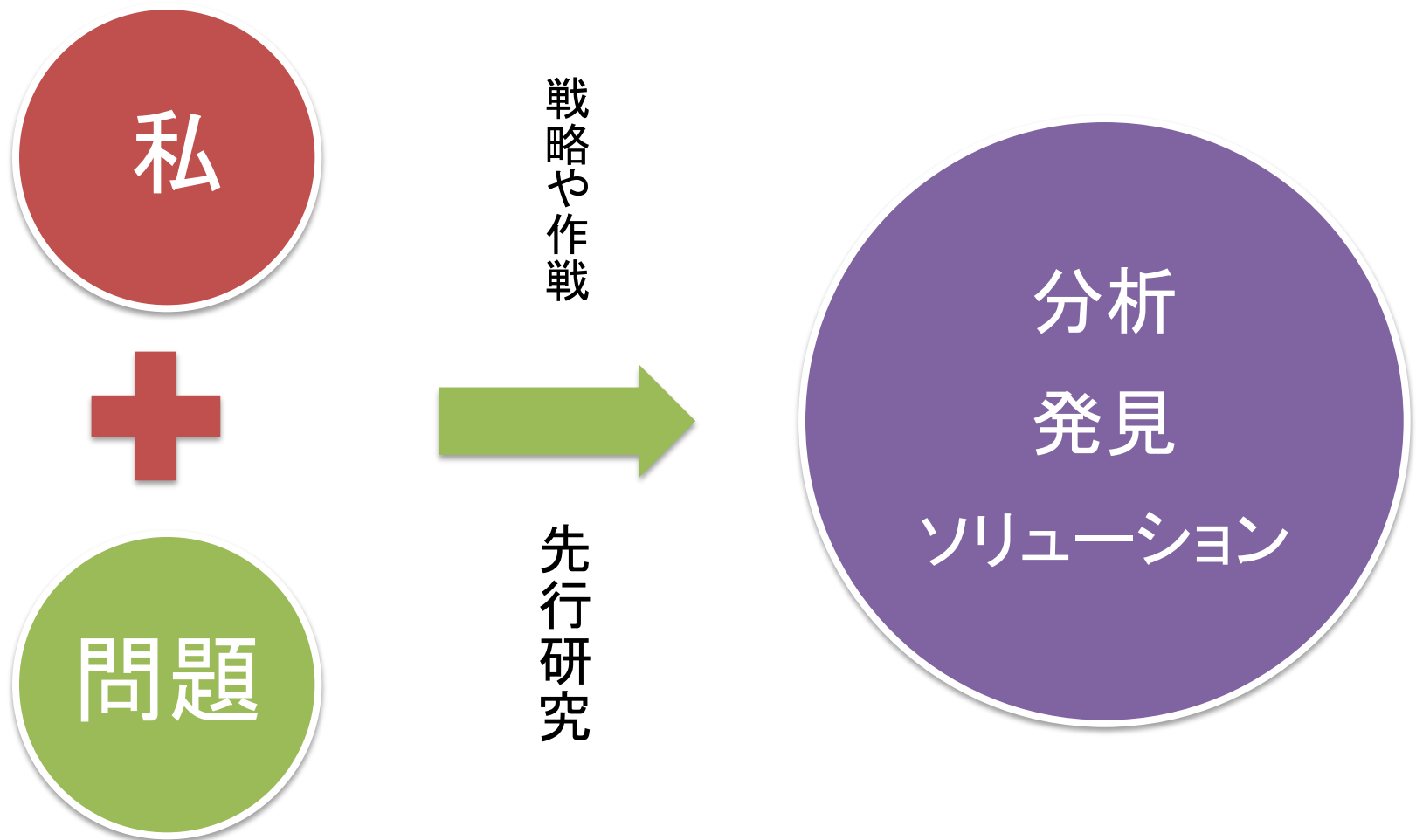
卒論を野球にたとえると...



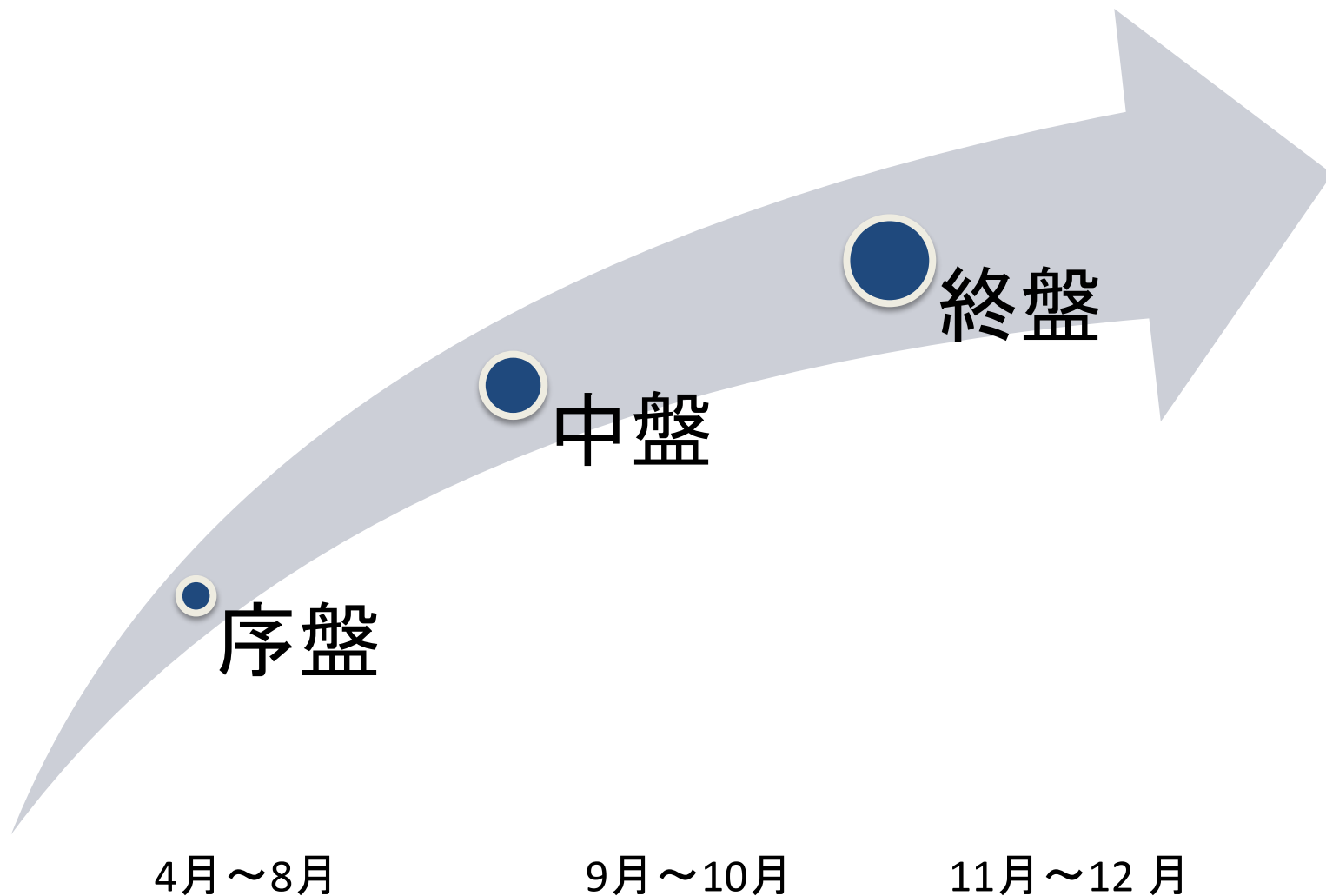
それは問題と対戦する試合なのだ



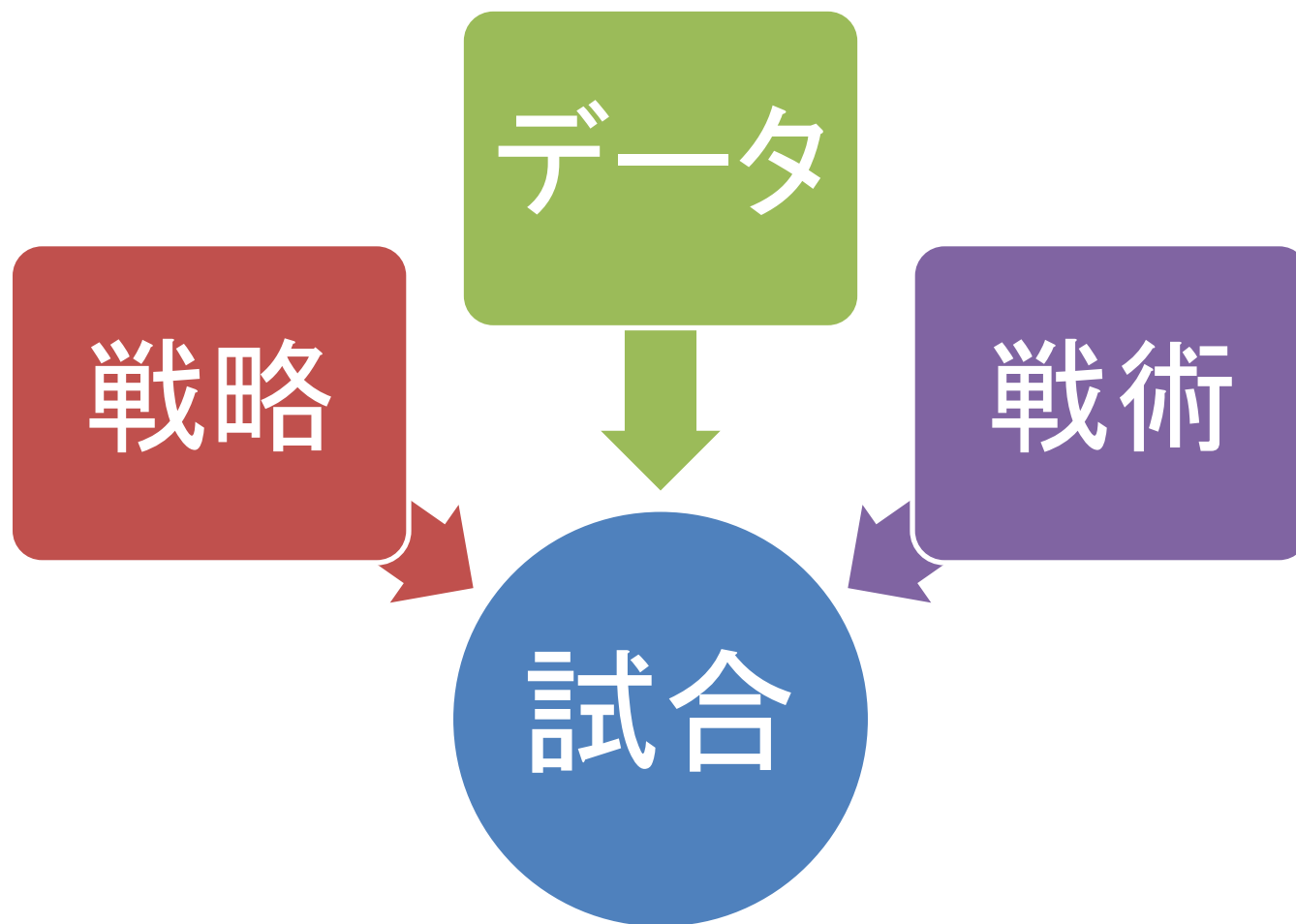
「対戦相手」がある



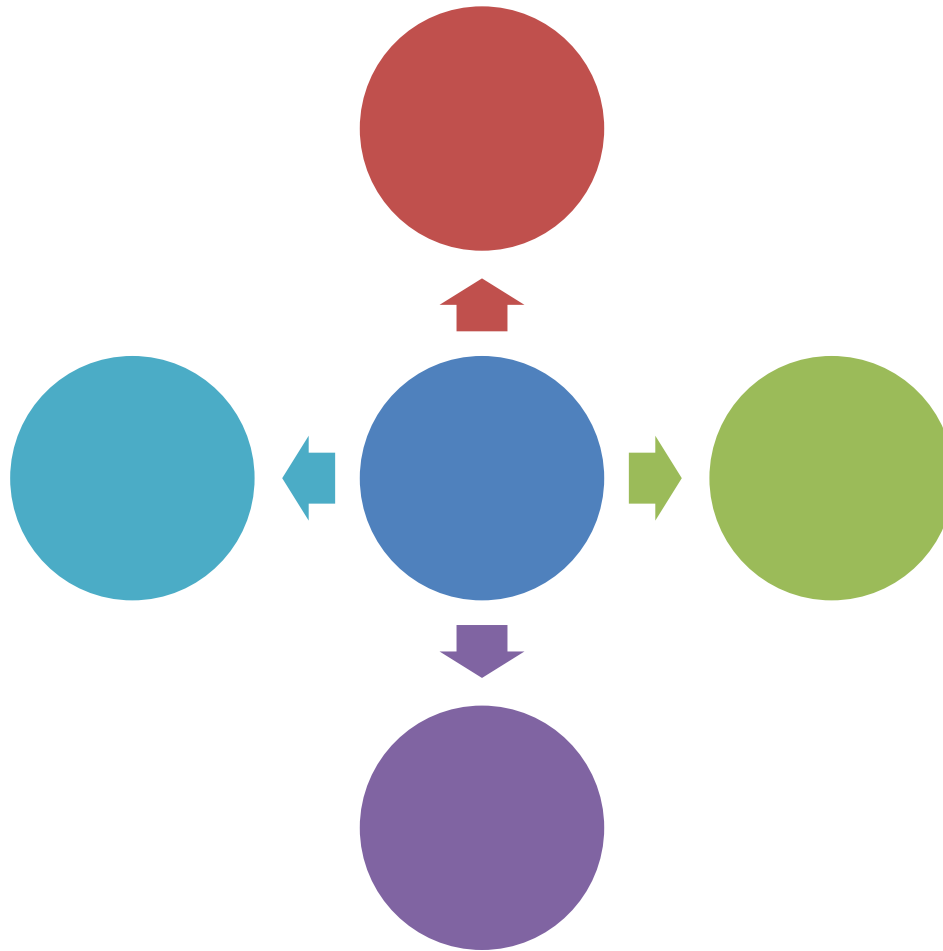
試合には「序盤、中盤、終盤」がある



試合に勝つためには作戦が必要



戦略や戦術を考えることこそ 先行研究のレビューの役割



基本のセオリー

- **選手は、毎日、練習する**

- ランニングやキャッチボールが基本なのと同じく、毎日すこしづつ読み、書き、考えること

- **大振りしない**

- いきなりホームランを狙うとフォームが崩れます。大きなテーマを狙わない

- **積み重ねる**

- まずバントして一塁へ。ついで得点圏へ送る。そして終盤戦で勝負をかける

序盤戦で大切なことは

- 試合はすでに始まっている
 - 観戦していないで、グラウンドに立つこと
- 戦力(材料)あつめが大切
 - 9人の持ち味のちがった選手がいるから試合になる。卒論も材料がなければ試合にならない。
- よいお手本があると戦いやすい
 - 将棋の「定石」、試合の「戦略や戦術」
 - 先行研究がそれにあたる

試合はすでに始まっている

中盤戦とは

- 分析が勝負
 - 社会学的な分析とは何か
 - 整理、分類して
 - 比較
 - 発見
 - 命名(自分の発見したことに新しい名前をつけよう)

終盤戦ー勝負はどこで決まる？

- 毎日積み重ねてきたことが、ある日、「発見」につながる
- 納得も「発見」、確認も「発見」、予想と違うことも「発見」
- サプライズ、発見、驚き、喜び、楽しさ、などをぜひ付け加えてほしい
- 最優秀論文賞を受賞した論文は、どこが良かったのか？